

兵庫県代協 第7期定時社員総会開く

代表理事会長に紀氏を再選



紀氏



会員30人が出席した

兵庫県代協(紀隆晋会長)は5月28日、第7期定時社員総会を兵庫県私学会館(神戸市中央区)で開催した。会員30人が出席し、代表理事会長には紀隆晋氏が再選された。

2013年度の事業報告として紀会長は、「260人の会員で今期をスタートしたが、期末に268人で組織率は23.9%から24.6%となった。目標の50%にはほど遠く、14年度は会員拡大に向けてさらに力を尽くす。1年間を通じて支部会のプロックセミナー、阪神ブロック協議会の公開講座、教育研修事業、広報活動としてのホームページの更

新、地域への社会貢献活動、地球環境保護活動、企業環境事業での反社会的勢力排除の講習会などを各委員会が行ってきた」と報告した。

本年度の事業計画については、「保業計画が改正される運びとなり、顧客サイドに立つ行政は、損保代理店にも多くのことを求めている。兵庫県代協としても、日本代協の行動規範、倫理綱領の精神を堅持して事業計画に取り組む」とし、①教育研修事業②組織の拡大③広報活動④地域社会、地球環境保護への貢献活動⑤健全財政の堅持⑥会員相互や保険会社、他土業との交流促進の支援を挙げ、四つの付議事項は全て承認された。

内閣府 14年度応募作品を募集

内閣府は2014年度「交通安全ファミリー作文コンクール」の応募作品を9月10日まで募集している。交通安全について、普段考えていることや話し合っていること、身近な体験談、独自の工夫や実践例などを作文に書いて応募する。同コンクールは、各家庭などで交通事故について話し合うことで、交通安全の意識を高め、交通事故の減少を図ることを目的に、内閣府と交通安全関係3団体(全日本交通安全協会、三井住友海上福祉財団、日本交通安全教育普及協会)の主催で実施しており、今年1月16日に開催する交通安全全国国民運動中央大会で表彰する予定。優秀作と佳作受賞者には、内閣府・関係主催団体から表彰状を送付する。また、入賞作品は作品集にまとめて、入賞者や関係各所に配布し、内閣府ホームページ「交通安全ファミリー作文コンクール」にも掲載する。

募集の概要は次の通り。

【応募区分】①小学生の部②中学生の部③一般(高校生以上)の部

【賞】最優秀作「内閣総理大臣賞」各部1人▽優秀作「内閣府特命担当大臣賞」①6人以内②3人以内③1人▽佳作「内閣府政策統括官賞」①各学年原則5人以内②同6人以内③5人以内▽副賞①②図書カードなど③賞金(最優秀作5万円、優秀作3万円、佳作1万円)

問い合わせは、同コンクール事務局・アーツアンドクラフツ「交通安全ファミリー作文係」(電話0422・27・6622、Eメールsakubun@arts-crafts.co.jp)まで。

損保協会中国支部

自然災害への備えと損保の役割で

広島防災セミナー開催



ペットボトルで「雲」をつくる実験

損保協会中国支部(桑田憲吾委員長)は6月7日、広島県代協と共催で、「市民防災セミナー」を開催した。広島県出身の気象予報士・気象キャスターの大隅智子さんが講演。広島県代協の防災意識を高めることを目的に実施されたもので、会場の県立総合体育館には約60人が集まった。

第一部では「気象災害と広島県の天気」と題して、広島県出身の気象予報士・気象キャスターの大隅智子さんが講演。広島県代協の防災意識を高めることを目的に実施された。

第二部では「自然災害からの復興に向けて」をテーマに、同協会生活サークル部の小川政裕企画グループリーダーが「もしもの時」の備えとして、損害保険が果たす役割について説明した。

参加者からは、「広島に、動画で洪水や竜巻の恐ろしさを解説し、ペットボトルで「雲」をつくる実験などを行った。また、会場では講演資料の他、東日本大震災の復興商品である飲料水「だれかのため」を配布。同商品は売り上げの一部を震災支援として寄付するたに販売しているもので、被災地の高校生がラベルをデザインしている。

問い合わせは、同コンクール事務局・アーツアンドクラフツ「交通安全ファミリー作文係」(電話0422・27・6622、Eメールsakubun@arts-crafts.co.jp)まで。

石碑は語る ~地震と日本人、闘いの碑記~ 森 隆 著

●過去、日本を襲った大地震・大津波の記憶は、被災地に残された石碑に刻まれています。先人が現代の我々に残してくれた、教訓や記録に触れ、読みとく一冊です。

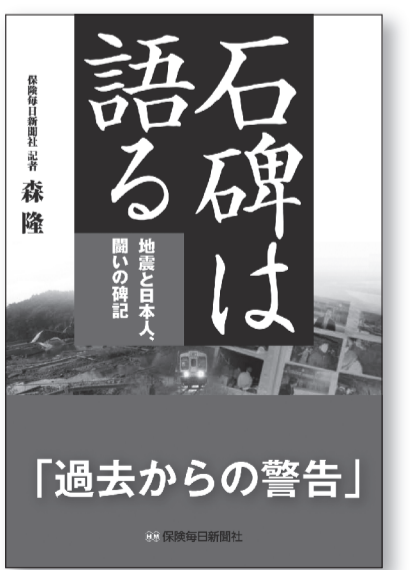
日本は、過去何度も大地震におそわれ、その都度立ち直ってきた国です。生き残った先人たちは、災害の記憶と教訓を多くの石碑に残して現代の我々に伝えてくれています。

本書は、保険毎日新聞記者として全国の災害地取材してきた森隆氏が各地の石碑に刻まれた災害の記録と教訓を紐解いておられます。災害が発生した時、何が起り、どのように備え、どう行動するべきかを考えさせられます。

【本書に掲載されている石碑の所在地(一例)】

北海道日高地方、北海道奥尻島、岩手県宮古市、岩手県釜石市、秋田県男鹿市、宮城県石巻市、宮城県東松島市、千葉県銚子市、東京都中央区、神奈川県鎌倉市、新潟県小千谷市、長野県王滝村、静岡県伊豆の国市、岐阜県本巣市、石川県輪島市、福井県福井市、京都府京丹後市、大阪府堺市、兵庫県西宮市、兵庫県神戸市、徳島県海陽町、高知県高知市、福岡県福岡市、沖縄県石垣市など全国50の石碑を収録。

著者略歴 森 隆 (もり たかし) 昭和51年、明治大学商学部卒。広告代理店のコピーライターを経て、保険毎日新聞記者に。東日本大震災以降、宮城、岩手、福島など被災地を巡り、取材活動を続ける。特に、保険毎日新聞では東日本大震災特集をはじめ、被災した保険代理店の苦闘を描いた「被災地の星」シリーズ、福島第一原発周辺の保険問題を扱った「南相馬からの伝言」、さらに、被災地の状況を新聞記者の目から伝えた「被災地に行く」など、震災関連のテーマを数多く手掛ける。日本代協保険大学校修了。



ISBN978-4-89293-134-5